

「権利擁護支援フォーラム inいわて」 事業報告

2011年11月26日(土)に、東北ブロックにて「権利擁護支援フォーラム inいわて」を開催させて頂きました。今年は、岩手県盛岡市にて行われ、「成年後見センターもりおか」に現地事務局として、ご協力頂きました。当日は140名近くの方にご参加頂き、会場のホールがぎっしり埋め尽くされ、無事に盛況にて幕を閉じることができました。

前半は、筑波大学の上山泰先生に「成年後見制度の入門と実践」というテーマで、成年後見制度について、制度の成り立ちから、現在における問題点まで、くわしく解説して頂きました。成年後見制度にあまり馴染みのない方でも、成年後見制度の表と裏という枠組みのなかで、わかりやすく制度の理解を進めると共に、今後についても深く考えさせられる講義だったと思います。皆様、とても集中して聞き入っておられました。



後半はパネルディスカッションで、今年は「被災地における権利擁護支援」をテーマに発表が行われました。パネリストは、岩手県から「宮古圏域障がい者福祉推進ネット」加藤伸二さん、宮城県から「宮城福祉オンブズネット エール」谷徳行さん、福島県より「そよ風ネットいわき」下園栄一郎さんをお迎えし、コーディネーターとして竹内俊一副代表、助言者として上山先生にも引き続きご参加頂きました。



各地域の震災時の状況や支援活動についてお話し頂き、加藤さんからは当時の被害の状況を伝える映像を上映頂き、被災された地域の状況と現地の皆さんの懸命な活動の様子が目にみえるようでした。貴重なお話の数々だったと思います。復興の歩みとともに、東北ブロックは今後どのように変わっていくのか、期待が膨らむ、充実したフォーラムになりました。

最後になりましたが、後援団体の皆様はじめ、登壇者の皆様、現地スタッフの皆様、大変な中でのフォーラム開催にお力添え頂き、ありがとうございました。来年もよろしくご願い申し上げます。

全国権利擁護支援ネットワーク事務局
特定非営利活動法人PASネット 櫻井彩

添付は翌日の岩手日報の記事です。ご参照ください。



成年後見制度の運用など被災地支援の在り方や課題について意見交換するパネリスト

被災者の権利 どう支援

成年後見制度考える

盛岡パネル討論

権利擁護支援フォーラムinいわて(全国)は26日、盛岡市中央通3丁目の共済ビルで開かれた。「被災地における権利擁護の展開」と題してパネル討論を行い、弱者支援に取り組むNPO団体のスタッフや専門家が、被災地での成年後見制度の利用などを考えた。

被災した岩手、福島、宮城の福祉関係者が震災後の支援状況を報告。宮古市のNPO法人レインボウネットの加藤伸二事務局次長が「震災を受けて、資力のない人が成年後見制度をどう利用できるかが課題」と指摘した。筑波大法科大学院の上山泰教授は「後見人を支援する体制充実も必要。複数の人が連携

して対応するシステムづくりが重要だ」と提言した。成年後見制度は、高齢者や障害者ら判断能力のない個人に代わり、家庭裁判所が選任した後見人が法律行為などを行う制度。被災

地での積極運用も期待されるが、後見人をつける高齢者らの金銭的負担など課題もある。約140人が聴講し、北上市下江釣子の消費生活専門相談員高橋美恵子さん(31)は「消費生活相談の現場

でも、金銭管理能力のない高齢者に悪質商法の被害が大きい。制度の周知徹底が必要」と感想を述べた。上山教授による講演「成年後見制度の入門と実践」も行われた。